



## 会からのお知らせ

### ○ 9月度定例役員会

日 時 9月8日(土) 13:30～15:00  
場 所 ふるさと歴史館・視聴覚室  
役員会の前にニュース等の封入作業がありますので、  
13時にお集まりください  
会員の皆さんはどなたでも出席できますので、是非  
お出でください。

### ○ 他稲門会等への出席

東京三多摩支部北部ブロック会議 8月7日(火) 13:30～ ルネ小平  
三宅会長 小亀事務局長出席  
稲門祭第3回実行委員会 9月11日(火) 18:00～ 早大 小野講堂  
風間副会長・當間副会長・小亀事務局長出席  
東京三多摩支部 会長会・事務局長会 8月25日(土) 17:00～ 大隈会館  
三宅会長 小亀事務局長出席

### ○ 新入会員紹介

奈 切 秀 雄 (なきり ひでお) さん (昭和43・法)  
富士見町3-19-16 (042-397-7060)

### ○ 9月度お誕生会 (担当 芦田)

日 時 9月8日(土) 17:10～19:00  
場 所 割烹 丸藤 (久米川駅南口 徒歩1分)  
\* 9月度お誕生の方々 (敬称 略) 11名  
市川暢男・小久保清・小山幾造・島野健太郎・高橋英雄・月森通夫・戸田志郎  
姫野圭治・丸本聡明・村山政利・室井秀嗣

### ○ 第53回雑学講座

日 時 9月8日(土) 15:00～16:30  
場 所 ふるさと歴史館・視聴覚室  
講 師 田中忠行氏 (豊島屋酒造社長)  
演 題 お酒との楽しいつきあい方  
地元久米川町で酒造業を営む田中社長は、お酒の飲み方でも達人。  
「楽しく飲んでリフレッシュ」を、わかりやすくお話しいたします。

### ○ 映画「ゼロからの風」9月1日(土) ルネ小平 開場14:00

チケット購入に一層のご協力を！！

前号のニュースでお知らせ致しました映画会のチケットは会員皆様のご協力で約50枚ご購入頂きましたが、当会の割り当ては100枚ですので、是非ご覧頂きたく一層のご協力をお願い致します。ご希望の方は事務局小亀(394-6951)までご連絡ください。

### ○ 「総会」の講師決定

稲門会にとって最も大切な行事である総会が11月17日(土)午後 久米川駅近くの「菊水ホール」で行われます。皆様是非今から予定を入れておいてください。  
この総会の記念講演者として、当会会員の作家山崎光夫氏をお願い致しました。  
演題は、早稲田大学創立125周年を記念して「若き日の大隈重信と早稲田大学」  
—— 佐賀・長崎時代に大学の源流を見る —— です。  
多くの会員の皆様にご出席頂き、総会を成功させましょう。総会の詳細につきましては9月号ニュースでお知らせ致します。

## ○ 「早稲田祭2007」に対する寄付金のお願い

学生の祭典である早稲田祭は、革マル派の支配により、さまざまな問題が生じ、10年程前に中止されましたが、5年前から有志学生による新たな早稲田祭が行われています。今年も11月3日（土）4日（日）に行われます。この早稲田祭は大学からの補助金を受けずに運営しており、資金的に厳しい状況にあり、運営スタッフの学生から先輩の支援をもとめてきています。昨年も稲門会関係から80万円の寄付を頂いたそうです。

この件については大学の学生部長からも支援のお願いの文書が来ています。会員の皆様のなかでご支援頂ける方がおられましたら、下記の要領でお願い致します。

一口 5千円 （募集期間9月末まで）

振込先 みずほ銀行早稲田支店 口座名義 早稲田祭2007校友寄付

口座番号 068 - 2176075

振り込み人の名前の前に、東村山稲門会〇〇〇〇（氏名）とお書きください。

この件についてのお問い合わせは「早稲田祭2007運営スタッフ小林菜耶さんまでお願い致します。03-3207-0408（早稲田大学学生会館E339室）

## ○ 早稲田大学創立125周年記念 125キロウオーク

全国6つのルートから早稲田大学を目指して125キロを歩こうという計画です。

千葉（千葉街道）茨城（水戸街道）栃木（奥州街道）群馬（早稲田みち）山梨（甲州街道）

静岡（東海道）から9月23日、30日、10月7日、14日、21日の5日間で歩く

ものです。詳細は早稲田学報8月号に掲載されますので、関心のおありの方はご覧ください。

この件についての問い合わせ先は125キロウオーク実行委員会事務所（03-5256-7855）です。

## ○ 125周年募金御礼とお願い

6月6日現在の東村山市校友の募金状況は

|         |      |             |
|---------|------|-------------|
| 個人      | 283名 | 13,701,005円 |
| 団体（稲門会） | 1件   | 56,273      |
| 企業      | 2件   | 2,400,000   |
| 計       | 286件 | 16,157,278円 |

大学からの依頼額21,950,000円に対し、73.6%の達成状況です。東京都三多摩支部26稲門会のうち6位になっています。募金頂いた皆様には心から御礼を申し上げます。今後は100%達成はむりとしても、**2008年3月31日までに何とか80%以上の数字を目標として努力したい**と思いますので、会員の皆様のご協力を何とぞお願い致します。

因みに東京都全体では約30億円の目標金額の81.7%（24億円余）を達成しています。

## --- 2007年 商議員会 出席報告 ---

会長 三宅良太

今年の商議員会が7月14日（土）午後大学キャンパス井深大記念ホールで開催されました。

商議員は全国から870人が登録されており、当東村山稲門会からも大西、山下、三宅の3名がメンバーに加わっております。

開会の挨拶に始まり、前商議員会長の故坂田浩一氏他物故者に対する黙祷に続き新会長に日枝久フジテレビ会長・評議員が選出され、挨拶。続けて臼井総長の挨拶、そして大学財務報告、創立125周年記念事業募金関係報告、商議員会決算・予算、創立125周年記念行事の概要について報告、閉会となりました。

募金については200億の目標に対し現在155億残り45億となり、あと一步の協力要請がありました。創立125周年記念式典、記念演奏会は10月21日記念会堂で、稲門祭は10月20日、21日と西早稲田キャンパスで、ホームカミングデー式典は10月20日記念会堂で卒業後25・35・45・50年の校友（卒業生）を招待して催されます。

臼井総長は挨拶の中で、創立125周年となる2007年を「第2の建学」と位置づけ人材育成、教育研究活動のさらなる充実、21世紀に相応しい大学の基盤づくりに取り組み、世界で活躍できる「早稲田人」を育成しますと述べられました。



## 石炭 中国 そして南極

原田道昭 (S 5 3 理院)

財団法人石炭エネルギーセンター勤務

石炭は、わが国の生産はほとんどなくなってしまいました(125 万トン／年程度)が、約 1 億 8 千万トン／年が国内で消費されています。したがって、そのほとんどは輸入炭であり、オーストラリア、インドネシア、中国、カナダ、ロシア等から輸入されています。特に、オーストラリアからの輸入が多く、50 % 以上を占めています。

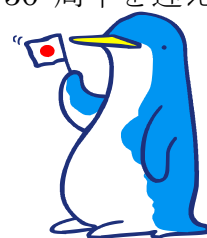
わが国では石炭は用途に応じて原料炭と一般炭に分けられており、原料炭は鉄鋼業における鉄を生産するためのコークス用の石炭のことで、一般炭は石炭火力発電所や工場のボイラー等の燃料用の石炭のことで、2005 年度のわが国の原料炭の輸入量は、約 8,000 万トンで、一般炭の輸入量は約 1 億トンでした。一般炭のほとんどは石炭火力発電所で使われており、わが国の発電電力量に占める石炭火力の比率は約 25 % です。因みに、原子力は約 30 %、水力約 10 %、LNG 約 25 %、石油約 10 % で、残り数%が地熱、新エネとなっています。したがって、わが国で発電されている電気は 4 分の 1 は石炭からつくられたものであり、石炭は非常に重要なエネルギー源となっています。

世界の石炭の生産量は、2005 年の統計では約 50 億トンとなっており、第一位は中国で 22 億トン、以下、アメリカ 9.5 億トン、インド 4 億トン、オーストラリア 3 億トン、南アフリカ 2.4 億トン、ロシア 2.2 億トン、インドネシア 1.4 億トンと続いています。これら石炭生産国でエネルギー源として石炭が多く使われることは当然ですが、現在の石炭貿易量は世界全体で約 8 億トンに達しており、日本がそのうちの 4 分の 1 近くを占め、第 1 位です。石炭の輸出国は、石油のように中東に集中しているのではなく、また政治的にも安定している上記の石炭生産国であることから、わが国は安定的に石炭を輸入できています。

以上でお判りのように中国は石炭大国であり、世界の石炭の生産量の半分近くを、そして中国のエネルギー消費の 4 分の 3 を占めています。しかし、石炭を生産する技術や使う技術においてはまだまだ発展途上にあり、炭鉱での死亡事故が多く、また発電所やコークス工場での環境対策が十分施されていません。わが国は世界のトップレベルの石炭生産技術、コークス製造技術、石炭火力発電技術を有しており、これらの技術を中国に移転することで、中国の石炭関連技術をもっともっと高度にすることにより、先進国と肩を並べる省エネ及び環境保全対策を施した石炭利用を実現すべく両国での協力事業を実施しているところです。

さて、最後に南極ですが、今を遡ること 27 年前に第 20 次南極観測隊の一員として南極大陸に足跡を残してきました。筆者の隊員としての任務は、氷に穴を開けることでした。その第一の目的は、その穴に火薬を仕掛けて爆破させ人工地震観測を行い地下の構造を調べること、第二の目的は、氷のサンプルを採取して過去の気候や氷の組織を調べることでした。わが国では初の試みで、計画では 100 メートルの穴を掘削する予定でしたが、トラブルもあり、63 メートルしか達しませんでした。しかし、その時の筆者の経験が生かされ、10 年後には 2000 メートル以上の穴を掘ることができるようになり、現在までに 3000 メートル以上を達成しているとのこと。筆者はその先鞭を切ったことを今でも誇りに思っています。そして、それは当時の第 20 次観測隊長の吉田先生が、筆者の南極へ行きたいという手紙(当時理工学部大学院)を受け入れてくださったことがきっかけでした。

南極は厳しい氷の世界ですが、ペンギンやオーロラは夢とロマンを与えてくれます。若い人たちが南極に興味を持ってくればこの上のない喜びです。わが国の南極観測は、昨年 50 周年を迎えました。初期のカラフト犬タロー、ジロー事件、旧ソ連のオビ号による宗谷の救出、昭和基地での福島隊員の遭難等は年配の方であればご記憶のことと思います。わが国の南極観測は終戦後の国民の疲弊した心に大きな希望を与えたと当時の記録に記されています。半世紀を過ぎ、物質面では大きく進歩していますが、精神面では当時と何も変わらないことでしょう。今後もわが国の南極観測は続きます。あなたも南極に行ってみませんか？



## 「大西・山下・木谷・井垣各氏を囲んで、東村山稲門会10年の思い出を語り合う会」

昨年東村山稲門会は設立10年を迎えましたが、この間会長、および幹事長、事務局長として、会の発展に尽力頂きました上記4人の皆さんをお招きし、久米川の「わたみ」で感謝の会が行われました。現・元幹事の方を中心に21人の方が集まり、10年の思い出を語り合いました。ささやかな会でしたが、和気あいあいの雰囲気の中で楽しいひとときを過ごすことができました。



## “心のふるさと”

木谷肇（S42商）  
由美子

「俺よりももっとすごい早稲田フリークがいたよ」と、帰ってくるなり主人（木谷肇）が嬉しそうに話してくれたのが11年前。東村山稲門会設立準備委員会に出席してのことでした。会の発展と共に、頑固で身勝手な主人を見放さずよくお付き合いくださいました。

そんな主人が6年程前、脳出血で倒れ、高次脳機能障害となり、記憶も失っていましたが、いち早く思い出したのは早稲田のことでした。稲門会の皆様からは、大変ご心配していただき、暖かく迎えてくださり、会にもできるだけ参加させていただいたことが何よりのリハビリになりました。心から感謝とお礼を申し上げます。主人にとって稲門会が“心のふるさと”でした。今も早稲田と聞くと涙が止まりません。

東村山稲門会が、もっと多くの方の“心のふるさと”となり、益々発展されることを願っております。

## 7月度「お誕生会」報告



7月7日（土）定刻より少々遅れた17時25分に、7月誕生の該当者6名を含む、総勢18名で、いつもの割烹 丸藤で開催された。今回は、三宅会長、芦田担当幹事が誕生月のため、司会を南湖幹事が、また、開会の言葉を風間副会長、乾杯の音頭を當間昭治副会長から賜り、お祝いの言葉とした。

高部様からは清水建設にお勤めの頃のお話を独自の口調で、高鷲様は「70歳。週2日仕事をしている。1～2年以内に囲碁で6段に」。「86歳。ウクレレ教室の生徒と毎日充実した日々。まだまだ頑張るが、PPK（ピンピンころり）と行きたいものだ」と意気軒昂な富塚様。松永様は「77歳だが、感性を若く保つためにも若い服装を心がけている。」と若々しい。「鹿島での40年。いまや東村山が兵庫県の故郷より地元になっている」また、当稲門会発足のきっかけに触れられた三宅様（会長）のお話があった。最後に芦田は若い頃の希望と職歴に触れ「定年は日本無線でむかえ、今は、毎日をエンジョイしている」と。

奈切秀雄様が新たに入会、「昭和43年法学部卒。富士見町に在住。長崎五島列島出身で、今後とも稲門会にいろんな形で関わって行きたい」との挨拶を頂いた。また、雑学講座の講師原田様には南極での生活についてざくばらん過ぎる？質問が。なごやかさがいや増した。

お祝いの言葉に添えて記念品贈呈、写真撮影と順調に進み、小亀事務局長の「閉め」の言葉、井垣様の指導による校歌、東村山稲門会の歌を斉唱し、力強く閉めくくられた。

担当幹事 芦田 均 393-7525

HAPPY BIRTHDAY

## 同好会だより

## カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071

7月例会は恒例の新宿への出張カラオケ教室を（芽ぐみ）で開催。 芦田、井垣、田口、高部、高鷲、山下、内藤の各氏7名が参加。マスターのぼんどうくにやす氏の新曲“女のみれん”を計3回発表され最後は全員で歌い上げるほどになりました。



今月の末には各カラオケに新曲として登録され誰でもどこでも歌う事が出来るそうです。全員CDを購入してきましたので貸すことも可能かと思えます。まるまる3時間歌いまくり全員が堪能した一夜でした。

環境が変わりギャラリーもおるせいか熱唱又熱唱でマスターからも皆さん1年間の進歩は目を見張りますとお褒めの言葉。満足の気分で帰路に。

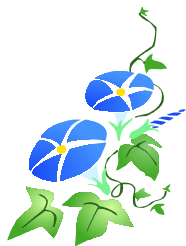
今後の予定

8月4日(土) カラオケランド ブー 19:20より

9月8日(土) カラオケランド ブー 19:20より

## 俳句同好会 (稲酔会)

世話人 井垣 和太 TEL 04-2924-2934



第33回「稲酔会」句会を下記の予定でおこないます。

日 時 : 8月25日(土) 午後1時～午後4時

場 所 : 恩多ふれあいセンター 多目的室

恩多町5-40-1 042-399-1551

出 句 : 兼題含む近詠 5句 をご用意下さい。

兼 題 : 「秋 風」

会 費 : 無 料 (懇親会あり 有料)

「俳句はいろいろと定め事があり面倒くさい。」とっていませんか。それは本格的にやるようになってからのことで、まずは身近の自然や、生活の出来事で、「おやっこんなことが・・・」と気付いたことを、五・七・五のリズムで口ずさめば立派な俳句の出来上がりです。日本語が持つ自然のリズムですから、誰でも簡単に出来るものです。

そこには必ず季節の言葉が入っているはずです。自分の知っている範囲の知識と言葉の中で、自分の感動を人に伝える一番分かり易い表現でまとめれば良いのです。難しい言い回しや、句の体裁は、自分の引き出しを全部開けてからあとの勉強次第です。

静かなブームを引き起こしている俳句を、我々と一緒に楽しみませんか。

(稲雀記)

## ゴルフ同好会

世話人 堀田秀夫 090-8339-7179

第二回会長杯(第22回) ゴルフコンペのお知らせ

9月9日(日)

西武園ゴルフ

集合時間 8時

スタート 8時41分より、6組

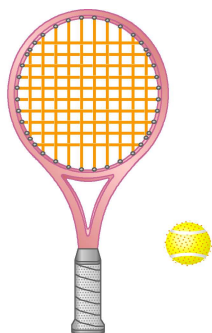
費 用 18,000円程度

参加費その他 4,000円

まだ参加者募集中であります。皆様ふるってご参加くださいますように。ご希望の方は、8月25日までに堀田の携帯に連絡してください。

## テニス同好会

世話人 當間昭治 TEL 391-6023

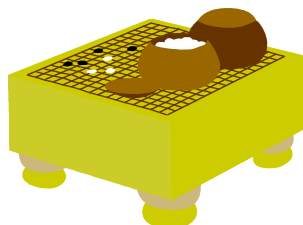


7月の例会は1日(日)久米川コートで実施、参加者は市川夫妻、田島、戸田、當間に、小亀さんと孫の雄太君(小1)が加わり7名、久しぶりの新メンバーで楽しい一時となりました。八王子から遠征してくれた雄太君、今後是非参加してください。

8月の予定は下記です。(9月は土・日が取れなかった為、検討中です。)

記  
日時 8月12日(日) 午前9時～午前11時  
場所 久米川コート3

## 囲碁同好会

世話人 野村保夫 TEL 394-0417  
高鷲近 394-2336

●8月夏季大会と10/28オール早慶囲碁祭のお知らせ○

●次回夏季大会は8月25日(土)午後0時半から、第6会議室で開催します。いつもより30分早く始めますのでよろしく。賞品代として500円持参でご参加ください。

○今秋10月28日(日)午後に行われる、創立125周年記念としての「オール早慶囲碁祭」については、参加方法の詳細の連絡が未だ来ていませんので、大会当日にご案内いたします。

## 園芸の会

世話人 當摩照夫・彰子 TEL 396-3033



次回の園芸の会を下記のように行います。今回はサギ草の鑑賞会です。皆様、ふるってご参加ください。

日時 平成19年8月18日(土) 午後3時～5時  
場所 東村山市市民スポーツセンター、スポーツクラブ室

## 俳壇

逝く相の穂やかなりし合飲の花 丸本 北窓  
地震なきを祈る夕や梅雨出水  
掛かり鮎口の辺りの水せわれ 八木 竜湖  
円らかに仕切る力士や青すだれ  
梅雨寒や中越地震容赦なし 芦田 火吐四  
梅雨晴れや六十路の妻のてんでこ舞  
遠離る郭公の声五月闇 井垣 稻雀  
しくしくと古傷痛む梅雨曇  
金色の御輿波立つ夏祭 大野 恵峰  
簾越し返事してゐる夕べかな  
夏至の日のオペラグラスに嘆きの場 菊田 一平  
針ゆらと揺れてプールの大時計  
選挙戦虚実声高梅雨最中 幸田 瑞雄  
初浴衣女になりし孫姉妹  
間にあはず信号をまつ暑さかな 高杉 風至  
ぶぶ漬にをはる献立霞障子  
白南風や川原芝居の歌聞こゆ 高部 糸行  
あらためて夜の挨拶夏祭  
梅雨空やボートの列の動かざる 内藤 慎  
山荘に残せし夢や忍冬

## 土着民の想起

朝木吾朗(昭34商)

私は70年程前、北多摩郡東村山村野口西宿の徳蔵寺の三男坊として生まれ、幼少の頃の当地は、東京府の中部の最北端にある静かな農村で、点在する農家の周囲は田畑と武蔵野特有の雑木林でした。徳蔵寺はこれら農家群の北部で埼玉との府県境から南方500メートルの所にあり「江戸名所図絵」に「徳蔵寺・将軍塚」と題して記載されており、かなり写実的に描かれています。

大正年間にいまの多摩湖である村山貯水池が造成された際に、前川と後川は要所々々が整備され、蛇行していた両川は直線的に改修されました。八国山は狭山丘陵の最東端に有り、最も高い所で将軍塚を含み、関八州が眺められ、その名で呼ばれるようになったようです。これらの田園山村地帯は、われら餓鬼共の格好の遊び場所でした。

さて、私達9人の兄弟姉妹が起居していた徳蔵寺の庫裏は11人家族にはとても手狭で、だだっ広い本堂と共に、2百数十年前に建てられたものです。茅葺きの屋根の天井裏では鼠が走りまわり、それを食べる青大将が同居していました。夏場に高床で涼しい本堂で昼寝をしていたとき、高い天井の隙間から2メートル近い青大将が身体の上に落下してきたことがありました。

広い本堂は茅葺きの手入れが間に合わず、雨漏りがひどく、仏像群は形無しの状態でした。床も痛み、畳を破って竹の子が生えてきたこともありました。大仏壇の左右には大部屋が二つずつあり、左側の奥の間には、今は重要文化財になっている「元弘の碑」が白い布団を敷いた細長い木箱に収めてありました。

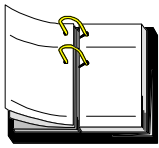
先代より受け継いだこの板碑に心酔した父は、近在より出土した石器、土器、国分寺瓦、板碑等を数多く蒐集し、左側二部屋はこれら蒐集物で床が撓んでおりました。父は境内に保存館を作り始めて、材木や屋根瓦も調達し、志半ばにして中風で倒れ、病臥の身になってしまいました。父は元気だった時、新聞記者を呼び、うまく宣伝していましたから、考古学に熱心な参観者が大勢来ました。埃だらけの石器土器、そして境内は雑然としておりましたから、「散らかし寺」の異名がついていたようです。

父は旧制の中学卒で坊主かたがた化成小の教師をしておりました。母は裁判官の長女で東京高専の英文科卒でクリスチャンでした。二人の出会いは国分寺駅で母が下駄の鼻緒を切らせて途方にくれていたとき、父がとっさに自分が着ていた僧衣を破り、鼻緒をすげ替えてやったことに母が感激し、母は周囲の反対を押し切って、貧乏寺の父と結婚したそうです。この縁談は当時村中の話題になったそうです。戦中戦後の食料難の時代に我ら9人の子供を抱え、母は14年間病臥の父の床の横に座り、世間話など聞かせておりましたが、貧乏世帯の子沢山で過労死してしまい、それをとても悲しんだ父は半年後に急逝してしまいました。まさにアーメン陀仏でした。私が立川高校生の時でした。



写真提供：赤荻洋一氏

### 今月の予定（8月）



4日（土）8月度役員会

お誕生会

カラオケ同好会

12日（日）テニス同好会

18日（土）園芸同好会

19日（日）音楽同好会

25日（土）囲碁同好会

（土）俳句同好会

### 9月上旬の予定

8日（土）9月度役員会

雑学講座

お誕生会

カラオケ同好会

9日（日）ゴルフ同好会



## 編集局だより

編集局：中村

○美住リサイクルショップ・夢ハウスで行われた「アクリルたわし講習会」に行ってきました。“アクリルたわし”とは洗剤なしで汚れが落とせるエコロジーグッズのことです。自分でも作ってみようと数年前に編み物セットを購入してそのままにしてしまったので、講習会に参加するのもよいかもしれないと思い申し込んだのでした。講師の方に丁寧に教えてもらい今度は無事に完成させることができました。これに気をよくして何個も編み友人にもプレゼントしました。いろいろな種類のたわしができたら面白いだろうと編み方の本も用意し、次は編み物の上手な母に教えてもらいます。呆け防止のための親孝行にもなるはずです、きっと。カラフルなたわしを使うと洗い物やお掃除が楽しくなるかもしれません。本当に洗剤なしできれいに汚れが落ちますヨ。これで家中ピカピカになればうれしい。

○次号の原稿締め切りは8月28日です。よろしくお願いいたします。

### 岡原裕泰（おかはら ひろやす）氏逝く

当会会員岡原裕泰さん（昭和39年第一文学部卒）は厳しい闘病生活に耐え、最後まで生きる意欲を失わず頑張ってきたが、ついに力尽き、7月22日逝去されました。生前ポストマンとして稲門会に協力頂き、また稲門会ニュース120号（平成19年3月3日号）に闘病生活の様子を投稿して下さいました。その文章の最後に土岐善麿の詩を引用してらしたのが印象的でした。

早稲田に入り早稲田を出でし追憶は老境にしていよいよ愉し  
早稲田人らしい気骨のある男を失い稲門会としても残念でなりません。心からご冥福をお祈り致します。

7月26日所沢斎場で行われた通夜式には三宅会長、小亀事務局長、風間副会長、當間副会長が参列させて頂き、玉串をお供えいたしました。